



ひがしにほんだいにしんさい  
●東日本大震災

ねんがつにちじぶんさん  
2011年3月11日14時46分ころ、三りくおきをしんげんとする、マグニ  
チュード(M)9.0の地震が発生しました。

にほんおおにしんせかいばんめおおにしん  
これは、日本でもっとも大きい地震で、世界でも4番目の大きさの地震でした。  
ゆくえめいしやおお  
まだ行方不明者も多く、すべてのひがいはわかっていません。

あおもりけんさんぱちかみきたちちゅうしんつなみ  
青森県でも、三八上北地いきを中心に津波のひがいがありました。

しゅつないかくふとくしゅうひがしにほんだいにしんさい  
※出てん：内閣府ホームページ「特集 東日本大震災」



しまつなみはちのへししゅつあおもりしんさい  
かが島におしよせる津波(八戸市)(出てん：青森震災アーカイブ)

かわぐちちくじゅうかちやうしゅつあおもりしんさい  
川口地区住家ひがい(おいらせ町)(出てん：青森震災アーカイブ)

にしにほんう  
●西日本ごう雨

きんねんにしにほんうすうじゅうねんいちどてきおおあめおお  
近年、西日本ごう雨など、数十年に一度といわれるきろくの的な大雨が多  
なっています。

こうずいどち  
洪水や土しゃくずれなどで、ひろい地いきで、たくさんのひがいで  
ます。

すちき  
わたしたちの住む地いきでも、記ろくてきな大雨がふるかのうせい  
があります。



みずようすおかやまけん  
まちに水があふれる様子(ていきよう：岡山県)

ちさぎようようすひろしまけんひろしまし  
ひさい地でのふっきゅう作業の様子(ていきよう：広島県広島市)

さいがいが起こると、これまで 当たり前だった生活が大きくかわってしまいます。

さいがいをけいけんした小学生の作文を読んで、どんな気持ちになったか、また、いま、自分たちにできることを考えてみましょう。

## 大きな地しんを けいけんして

3月11日、ぼくは前に通っていた杉の入小学校にいました。いつものように帰りの会をしていると、急に教室がゆれました。ものすごくゆれました。大きなゆれだったので泣いている友達もいました。

校庭にひなんしてしばらくすると、お母さんがむかえに来てくれました。それから家族で塩釜ガス体育館に行きました。体育館に入るとたくさんの方がいました。ぼくは何もすることがなく、その日は何も食べずにねました。

「ごはんだよ。」

という声で目をさますと、夜中の12時半でした。ゆかりごはんがくばられました。おなかがかすいていたので、とってもおいしかったです。

次の日、家族と家に帰りましたが、家の周りが水びたしになっていたので入れませんでした。ぼくたち家族は、しばらくの間体育館に住むことになりました。

初めは知らない人たちばかりでしたが、だんだんいっしょに遊ぶようになりました。毎日絵をかいたり、本を読んだりしました。トランプもしました。体育館のしょくいんの人たちとはバドミントンやサッカーをしました。

他の県の人たちや外国の人たちが来てごはんをごちそうしてくれました。とてもおいしかったのでおかわりをしました。

何日かおふろにも入れなくて困っていましたが、自えいたいの人たちが大きなテントを立てて、おふろを作ってくれました。とってもいい気持ちでした。

ぼくたち家族は、46日間体育館にひなんしていました。その間、たくさんの人たちに助けられ元気をもらいました。

将来、ぼくも困っている人たちがいたら助けてあげて、元気をあげたいと思いました。